

岡山県感染症週報 2016年 第40週 (10月3日～10月9日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2016年 第40週 (10/3～10/9) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第38週	2類感染症	結核	1名 (70代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O55: 30代 女)
第39週	2類感染症	結核	2名 (80代 男 1名・女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名 (O157: 60代 男 1名・女 1名)
	5類感染症	梅毒	1名 (40代 男)
第40週	2類感染症	結核	1名 (20代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2名 (O145: 30代 女 1名、60代 女 1名)
	4類感染症	A型肝炎	1名 (10代 男)
		レジオネラ症	1名 (50代 男)
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名 (80代 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (80代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RSウイルス感染症は、県全体で 106 名 (定点あたり 1.19 → 1.96 人) の報告があり、前週より増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 43 名 (定点あたり 0.94 → 0.80 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第38週に1名、第39週に2名、第40週に2名の報告があり、2016年第40週まで(～10/9)の報告数は51名となりました。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [RSウイルス感染症](#)は、県全体で106名(定点あたり1.19→1.96人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市(3.79人)、美作地域(3.67人)、倉敷市(2.36人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で43名(定点あたり0.94→0.80人)の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、倉敷市(1.82人)、美作地域(1.17人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。例年、冬季に患者が多く報告されますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

季節の変わり目です。体調に気をつけましょう。

10月に入り、気温の変動が大きくなってきています。急な冷え込みなどにより、体調を崩したときには早めに医療機関を受診しましょう。

咳やくしゃみなどの体調の変化を感じたら、早めにマスクを着用し、咳エチケットを心がけるとともに、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★★★★
咽頭結膜熱	➡	★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★★
感染性胃腸炎	➡	★★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	百日咳	⬇	
ヘルパンギーナ	➡	★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★★★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	★
マイコプラズマ肺炎	➡	★	クラミジア肺炎	➡	★★★
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

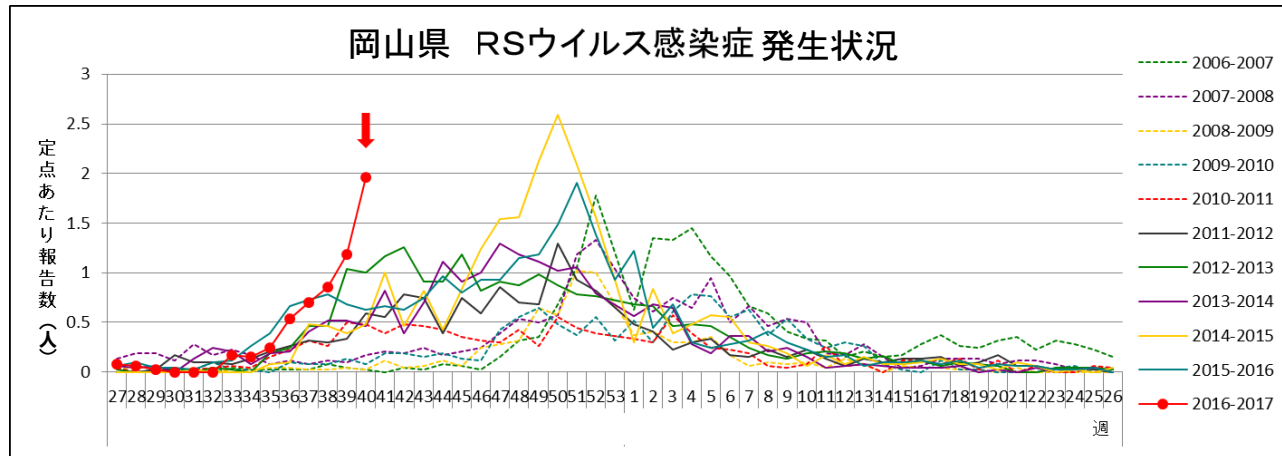
【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ⬇：大幅な減少 ⬇：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
 空白：発生なし ★：わずか ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★★：非常に多い

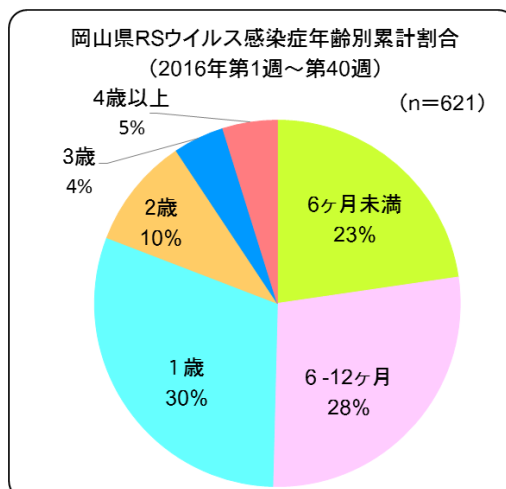
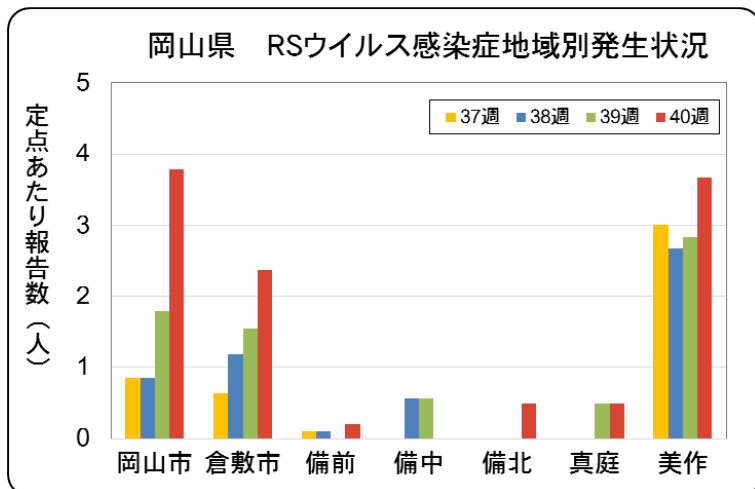
今週の注目感染症

RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】

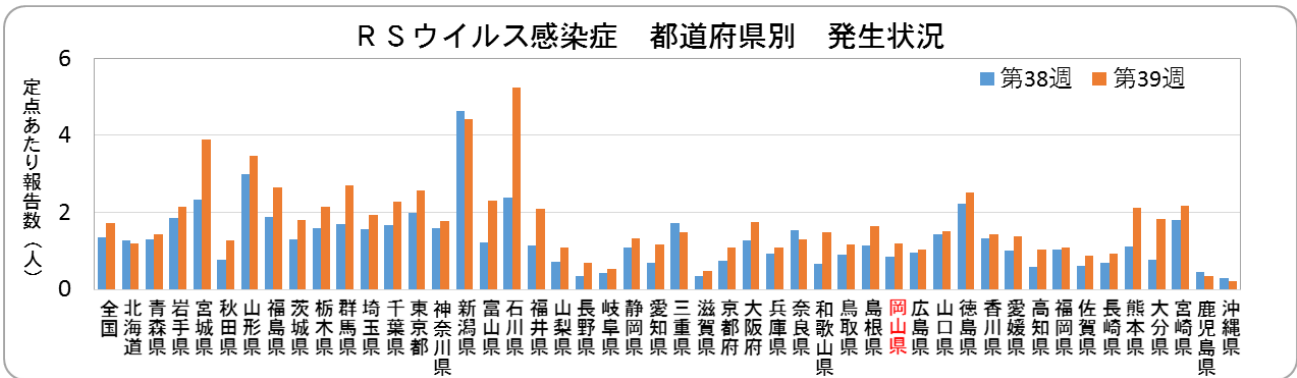
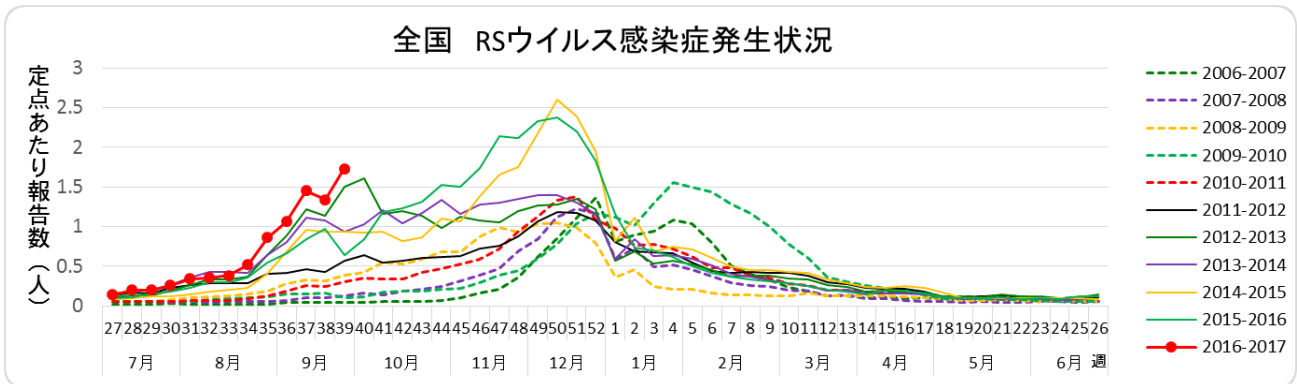


※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。



RSウイルス感染症は、県全体で106名（定点あたり1.19 → 1.96人）の報告があり、6週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態で推移しています。地域別では、岡山市（3.79人）、美作地域（3.67人）、倉敷市（2.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に岡山市（0.86 → 1.79 → 3.79人）では、2週連続で大きく増加しました。2016年第40週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の51%を占めています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後、さらに患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めてください。

【全国の発生状況】



全国の第39週（9/26～10/2）の発生状況は、定点あたり報告数が1.73人であり、前週よりわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。都道府県別では、石川県（5.24人）、新潟県（4.41人）、宮城県（3.88人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。東日本を中心に流行していますが、近隣県でも多くの患者が報告されています。

[IDWR 速報データ 2016年第39週（国立感染症研究所）](#)

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割が肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こします。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人が咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり又はなめたりすることによる間接的な接触で感染します。

【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の予防につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。

現在、有効なワクチンはありません。

【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2016年 40週(定点把握)

(2016/10/03～2016/10/09)

2016年10月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	1	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	106	1.96	53	3.79	26	2.36	2	0.20	-	-	2	0.50	1	0.50	22	3.67
咽頭結膜熱	14	0.26	10	0.71	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.80	7	0.50	20	1.82	3	0.30	5	0.71	-	-	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	268	4.96	72	5.14	63	5.73	41	4.10	16	2.29	25	6.25	21	10.50	30	5.00
水痘	15	0.28	6	0.43	6	0.55	-	-	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
手足口病	44	0.81	30	2.14	6	0.55	7	0.70	-	-	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	8	0.15	3	0.21	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	0.39	10	0.71	5	0.45	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	0.20	3	0.21	4	0.36	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	34	0.63	13	0.93	14	1.27	4	0.40	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	0.83	7	1.40	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 40週(発生レベル設定疾患)

(2016/10/03~2016/10/09)

2016年10月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	1	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	0.26	10	0.71	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.80	7	0.50	20	1.82	3	0.30	5	0.71	-	-	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	268	4.96	72	5.14	63	5.73	41	4.10	16	2.29	25	6.25	21	10.50	30	5.00
水痘	15	0.28	6	0.43	6	0.55	-	-	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
手足口病	44	0.81	30	2.14	6	0.55	7	0.70	-	-	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	8	0.15	3	0.21	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	0.20	3	0.21	4	0.36	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	34	0.63	13	0.93	14	1.27	4	0.40	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	0.83	7	1.40	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第40週 2016/10/03~2016/10/09)

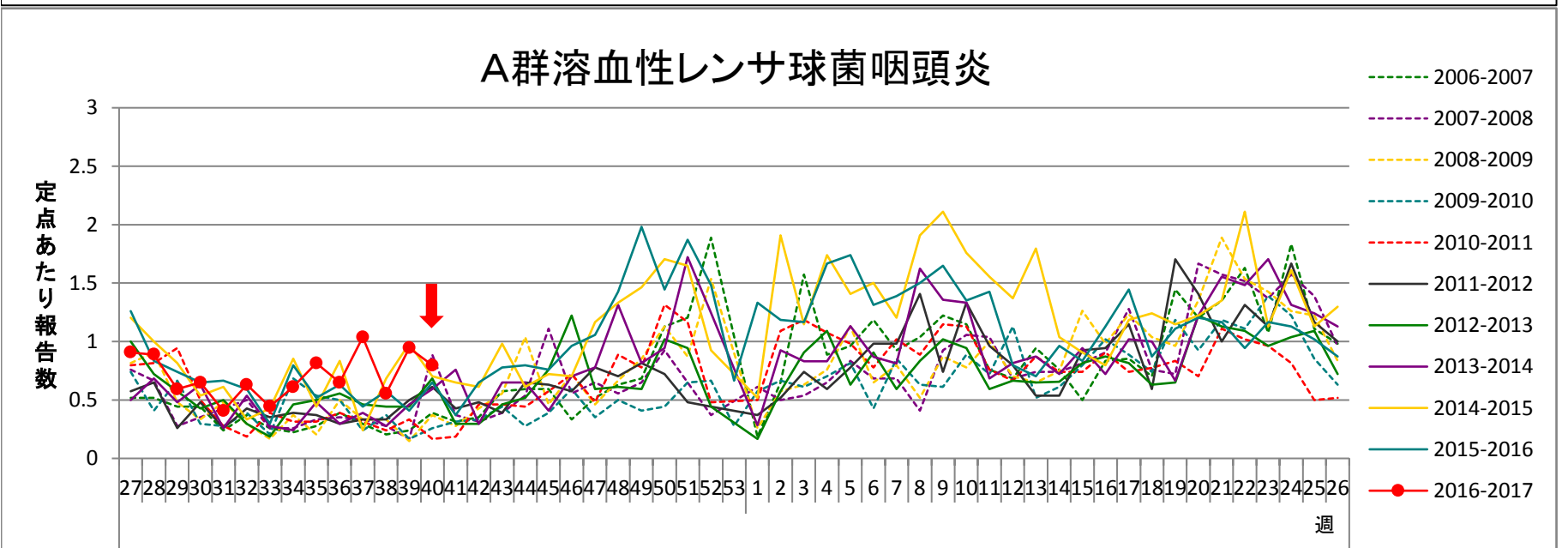
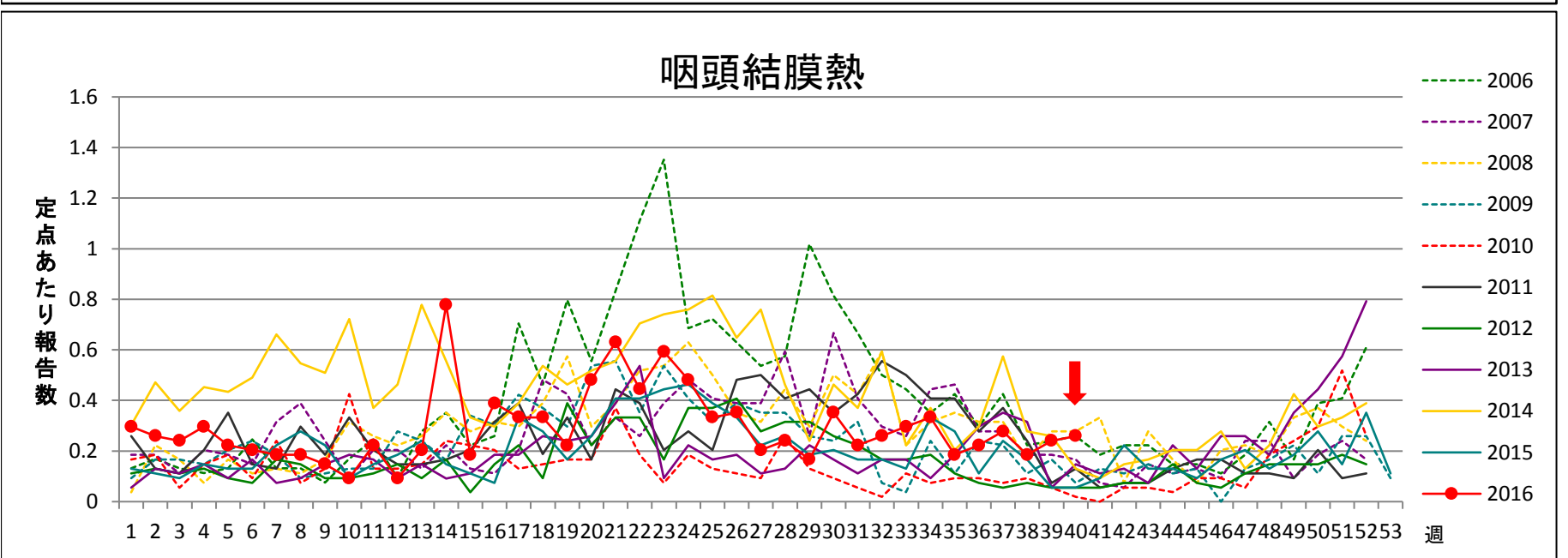
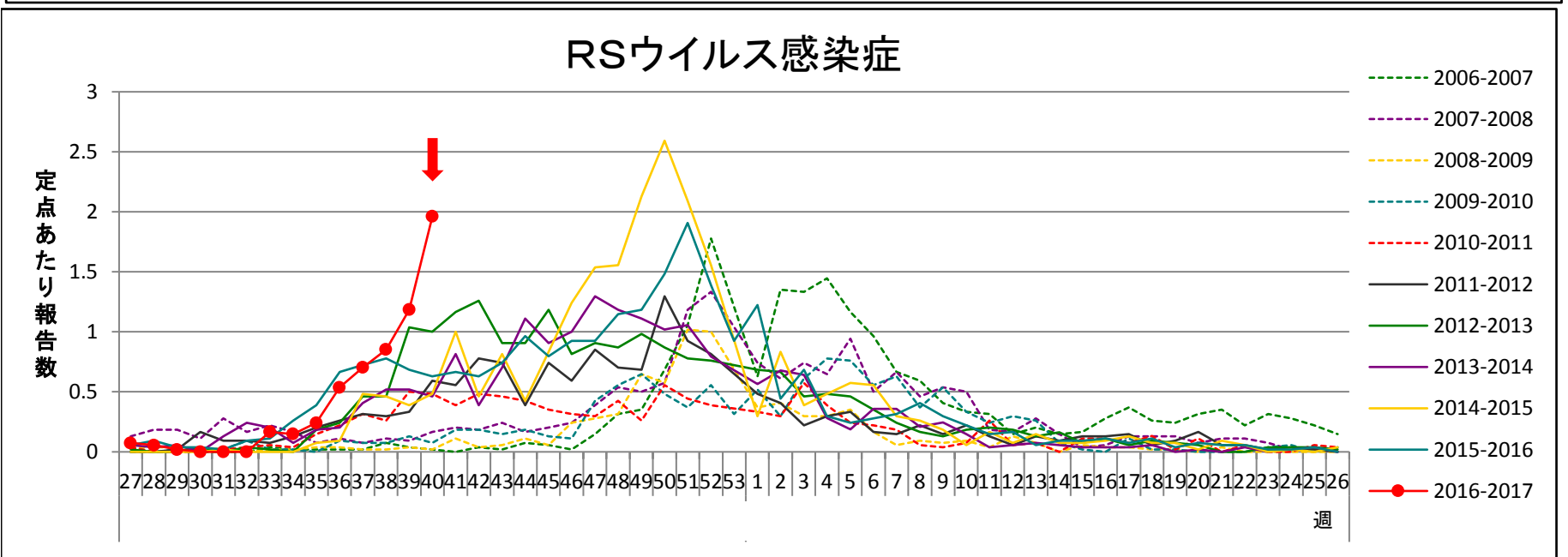
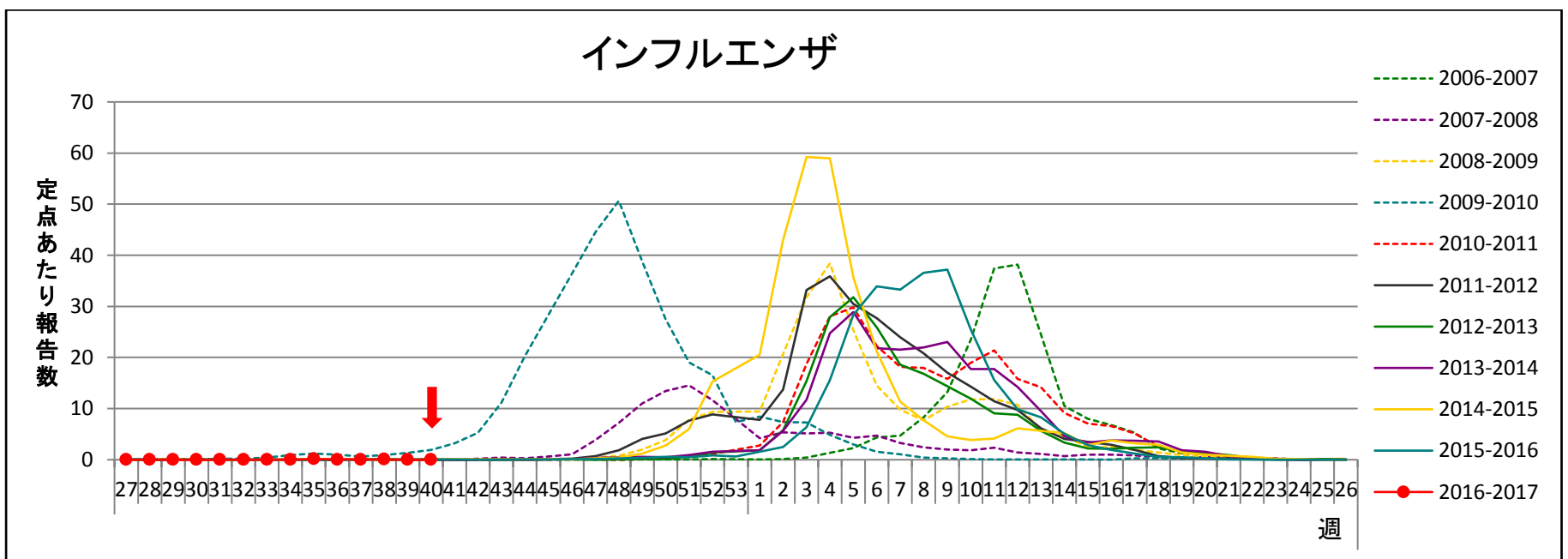
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	106	11	25	42	17	7	2	1	-	-	1	-	-	-	
咽頭結膜熱	14	-	1	5	4	2	-	-	2	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	-	1	2	3	3	3	4	4	5	7	1	8	-	2
感染性胃腸炎	268	5	21	41	29	27	23	21	20	9	9	5	18	5	35
水痘	15	1	1	3	-	1	4	1	-	1	1	1	-	1	-
手足口病	44	-	2	21	9	4	3	2	2	1	-	-	-	-	
伝染性紅斑	8	-	-	-	1	2	3	1	-	-	-	1	-	-	
突発性発疹	21	-	8	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	11	-	3	4	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	34	-	-	4	4	6	5	5	3	-	3	1	2	-	1

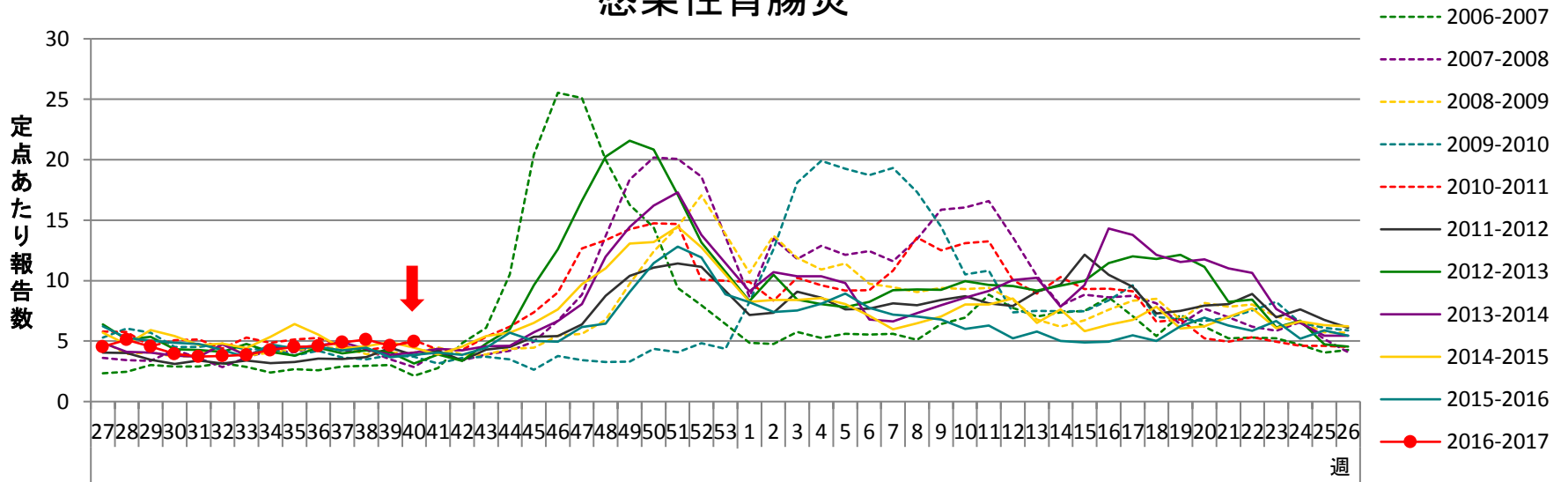
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	10	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1	-	-	-	3	3	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

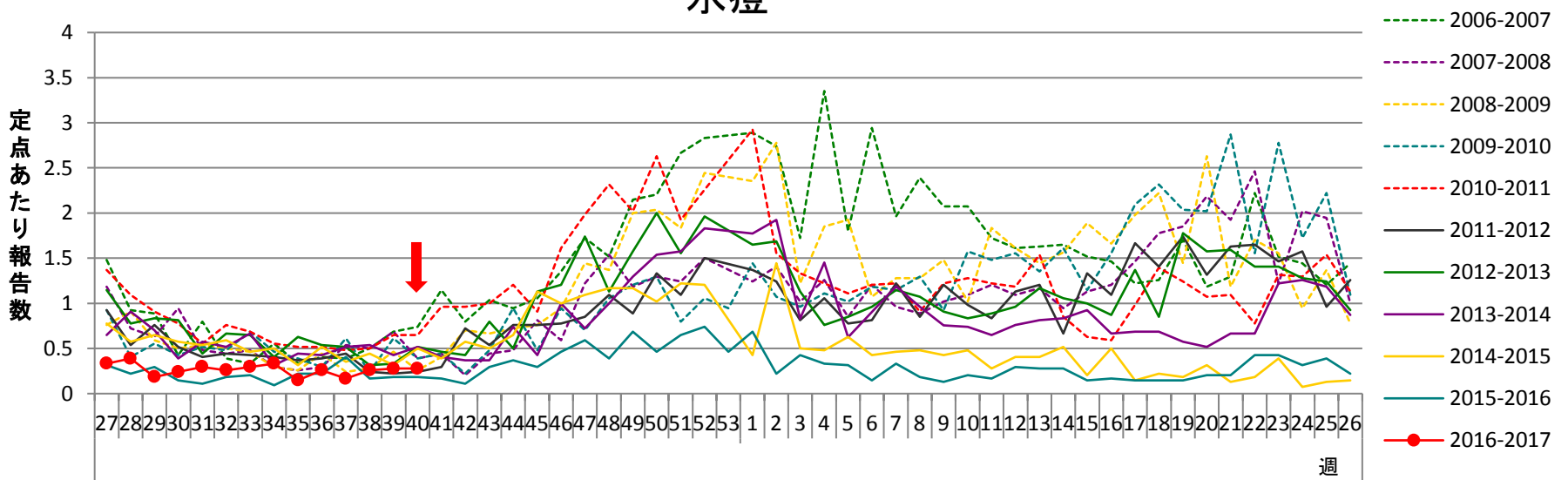
(- : 0)



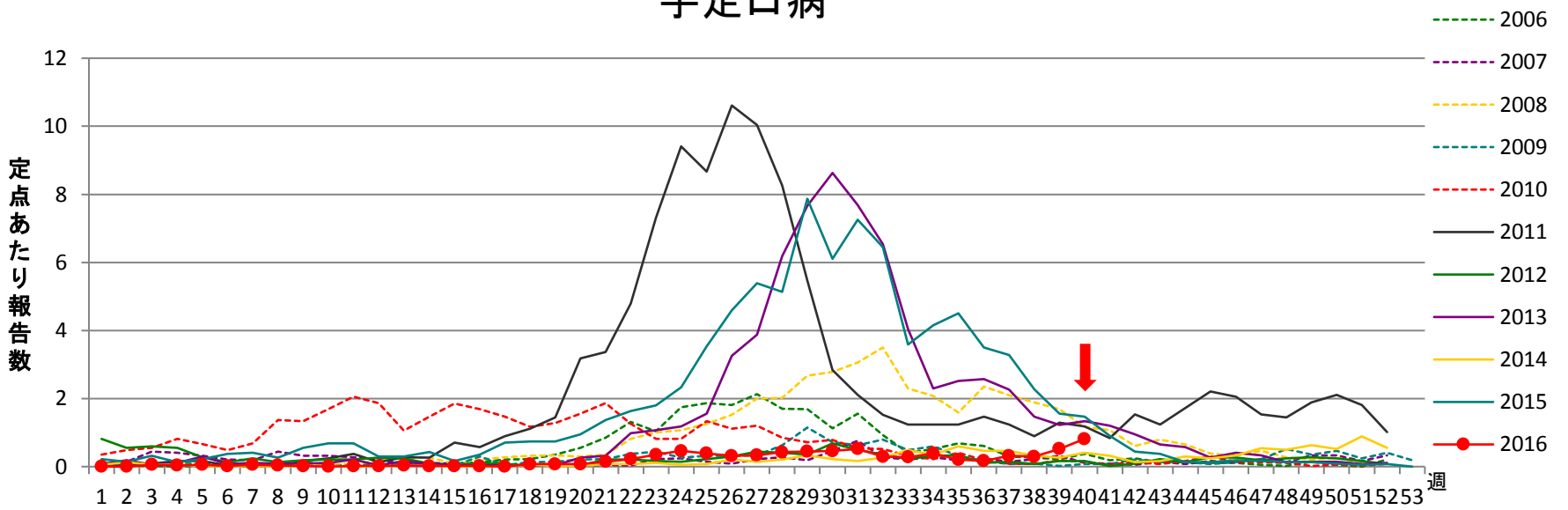
感染性胃腸炎



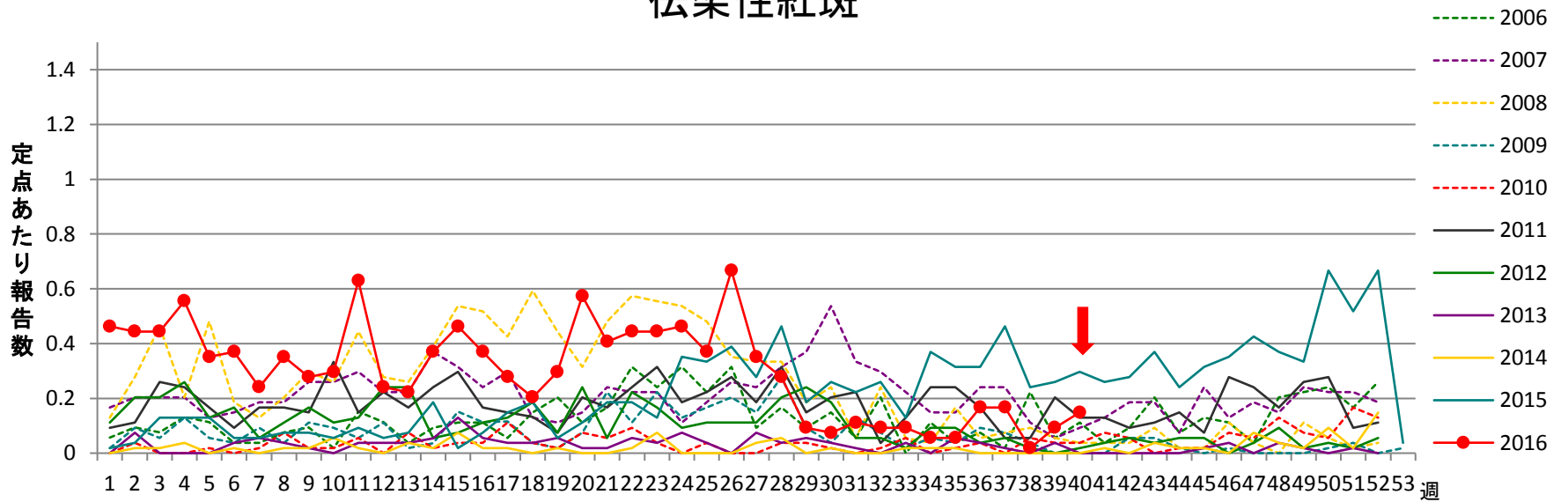
水痘



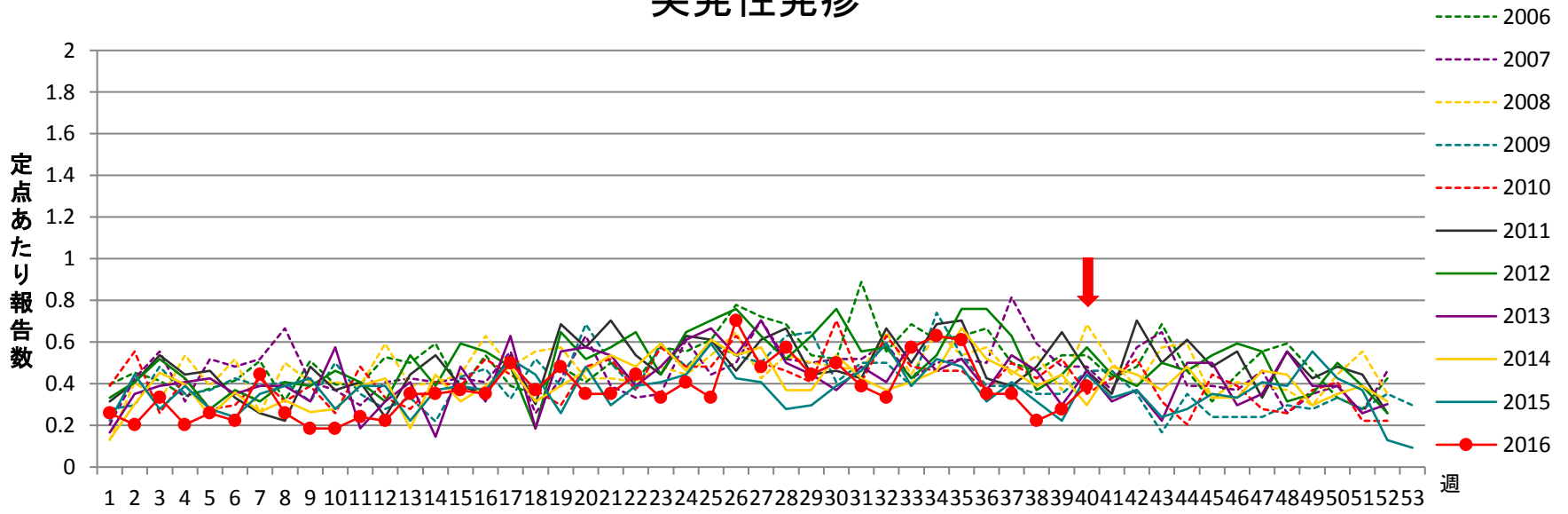
手足口病



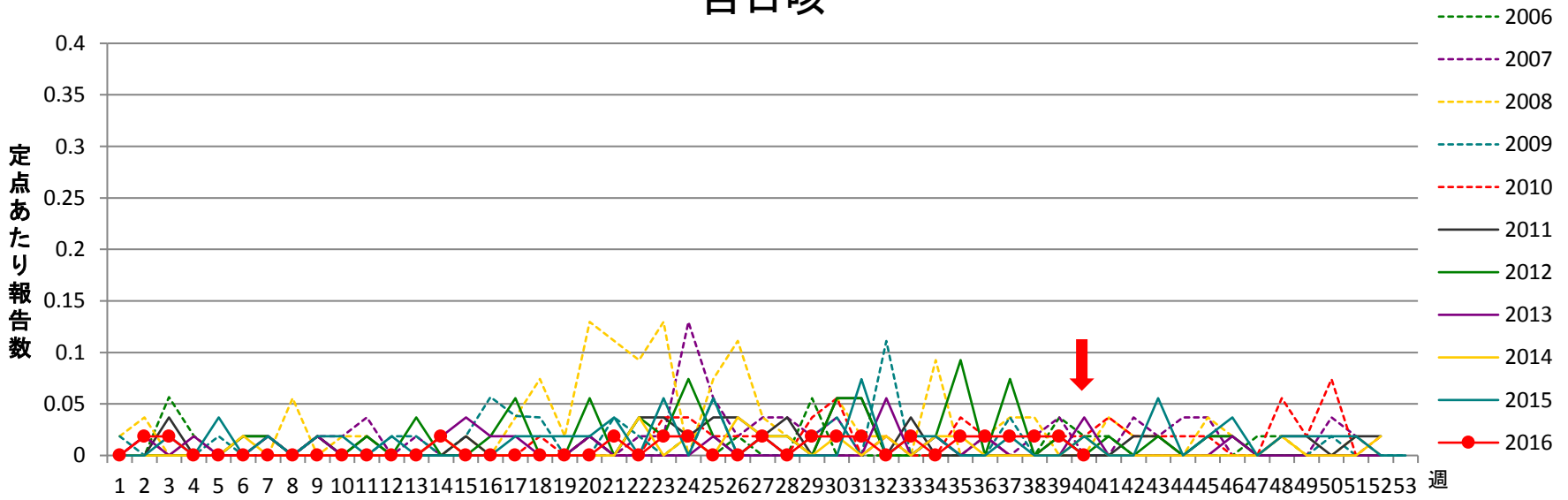
伝染性紅斑



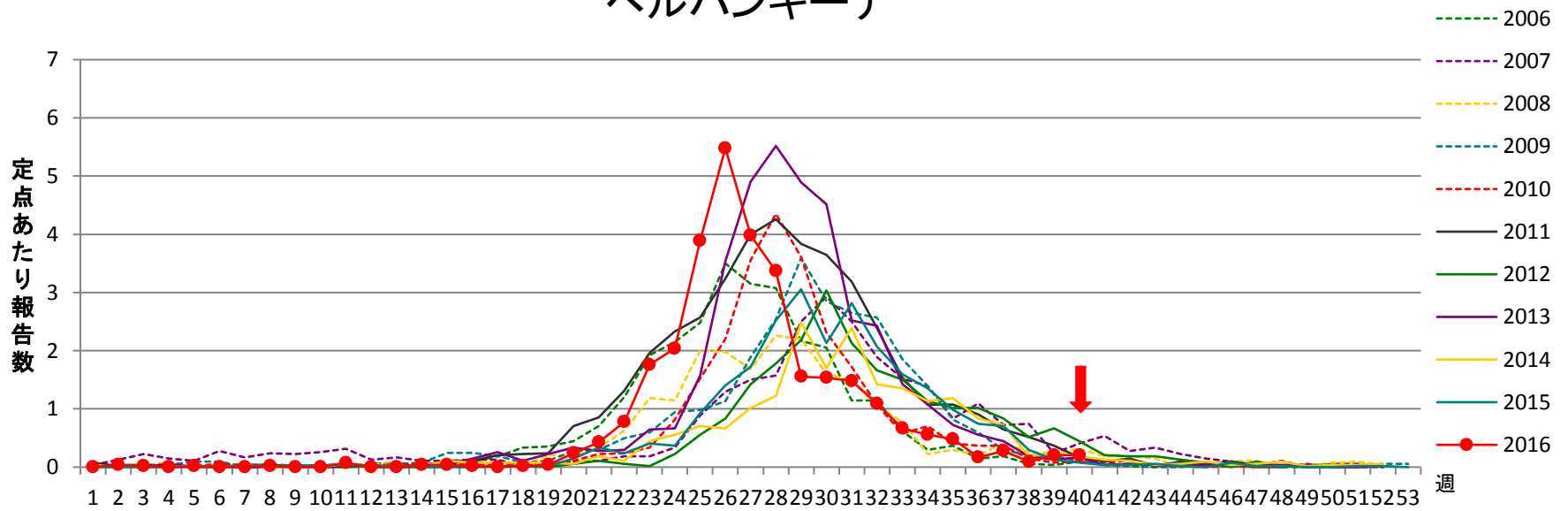
突発性発疹



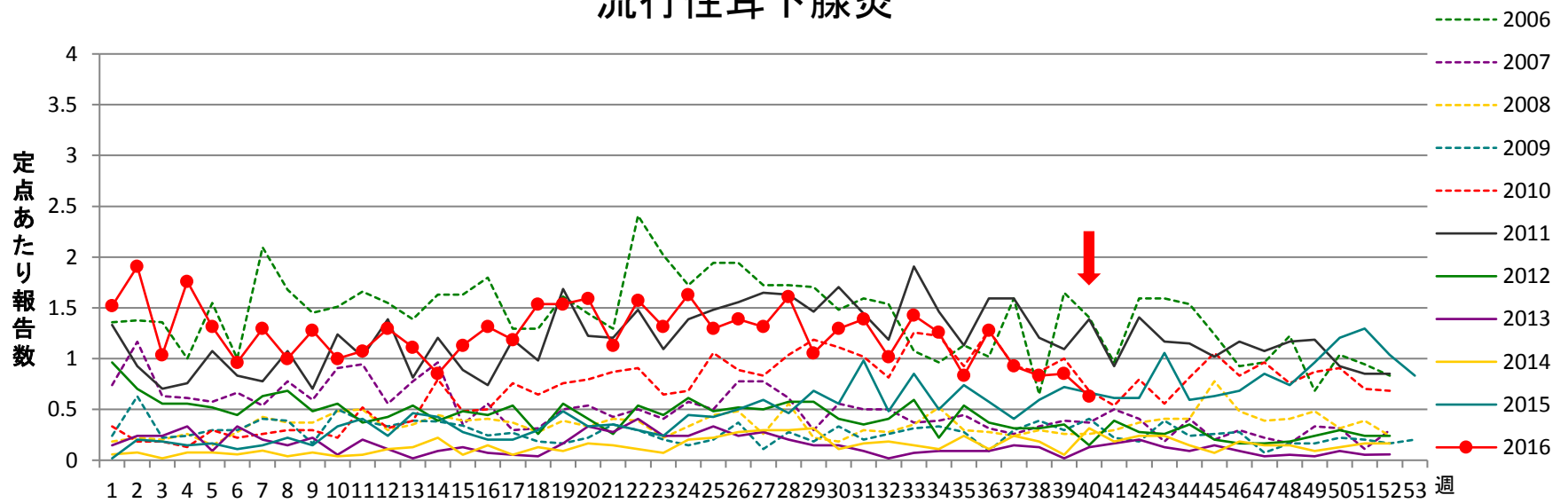
百日咳



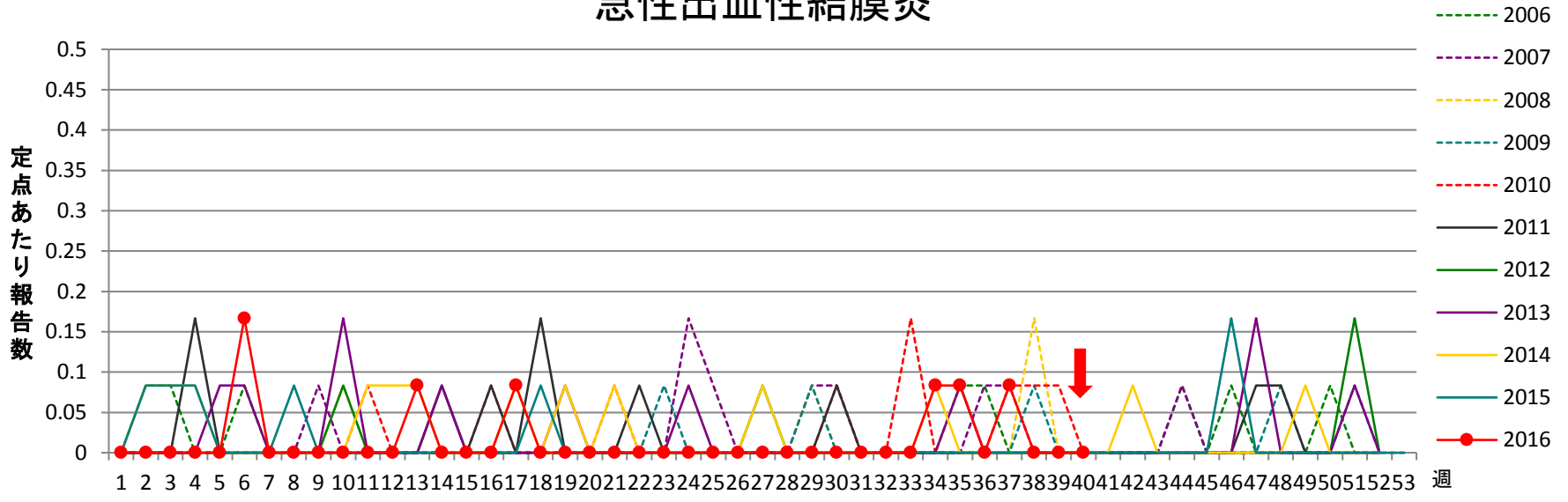
ヘルパンギーナ



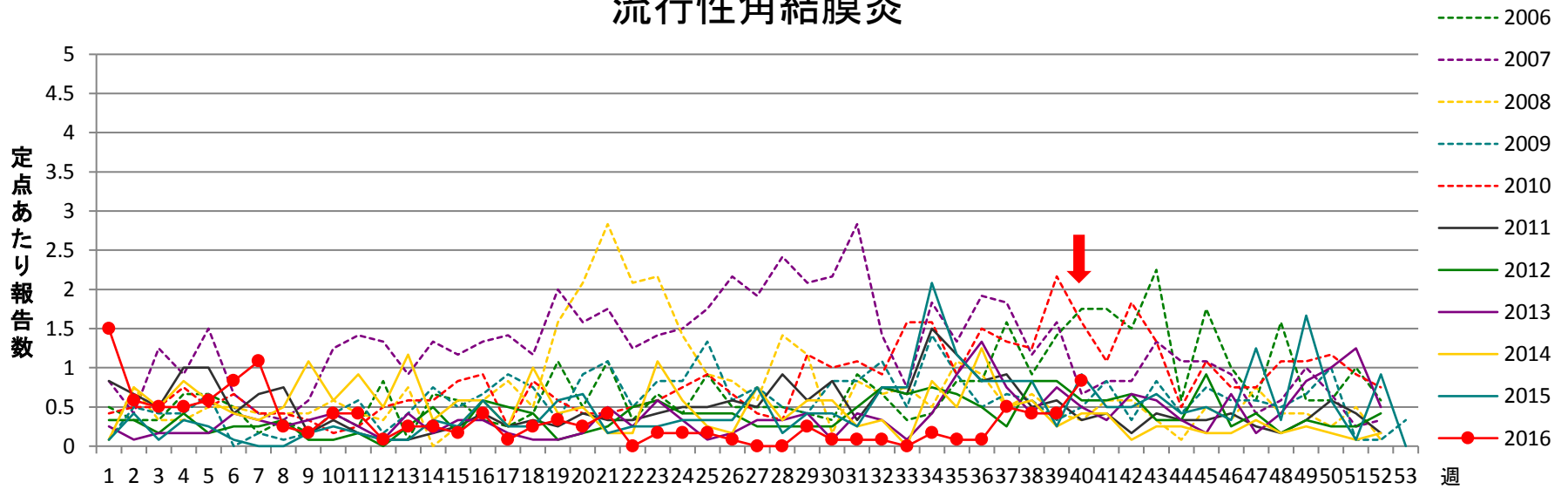
流行性耳下腺炎



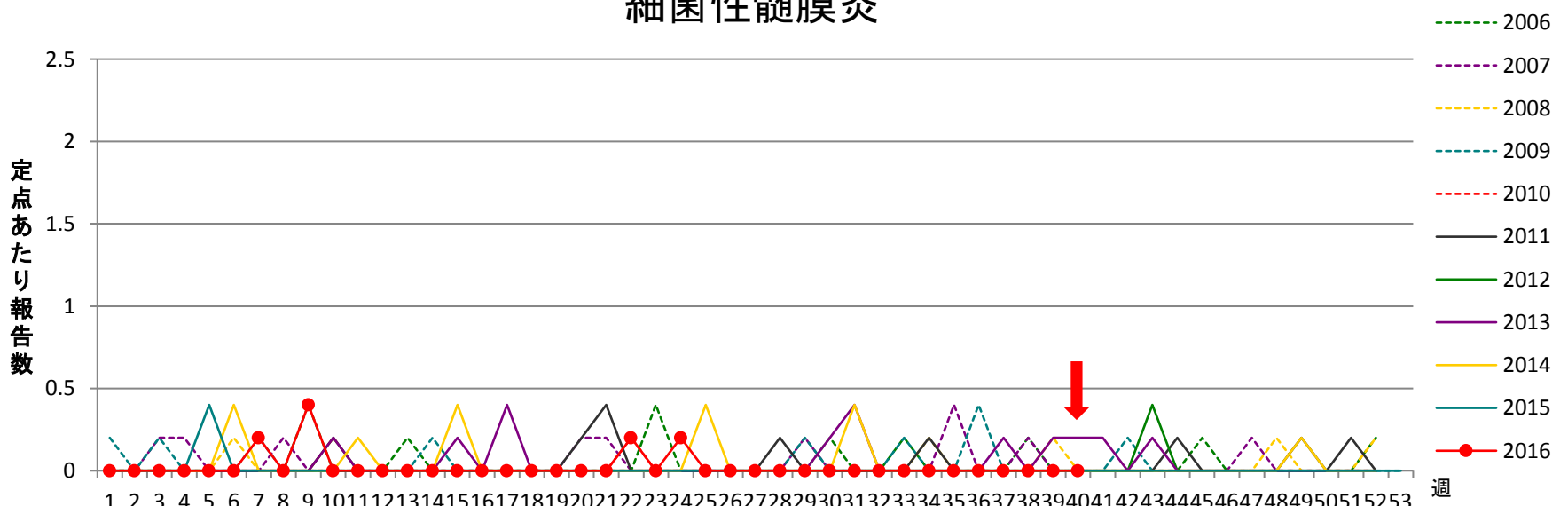
急性出血性結膜炎



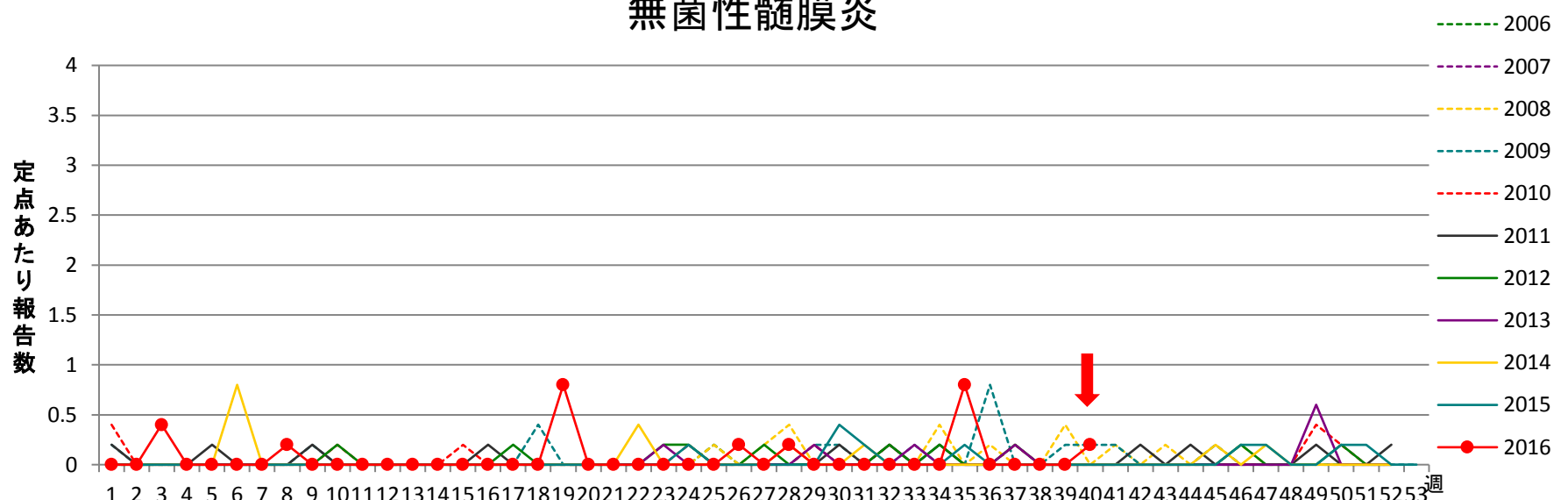
流行性角結膜炎



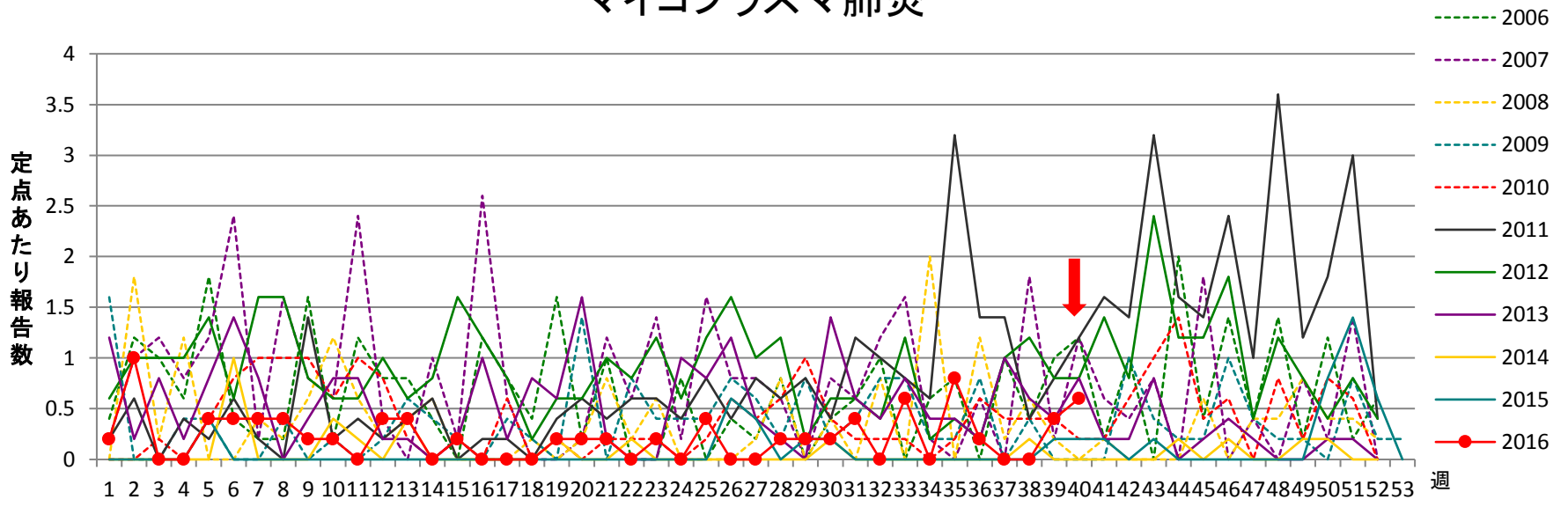
細菌性髄膜炎



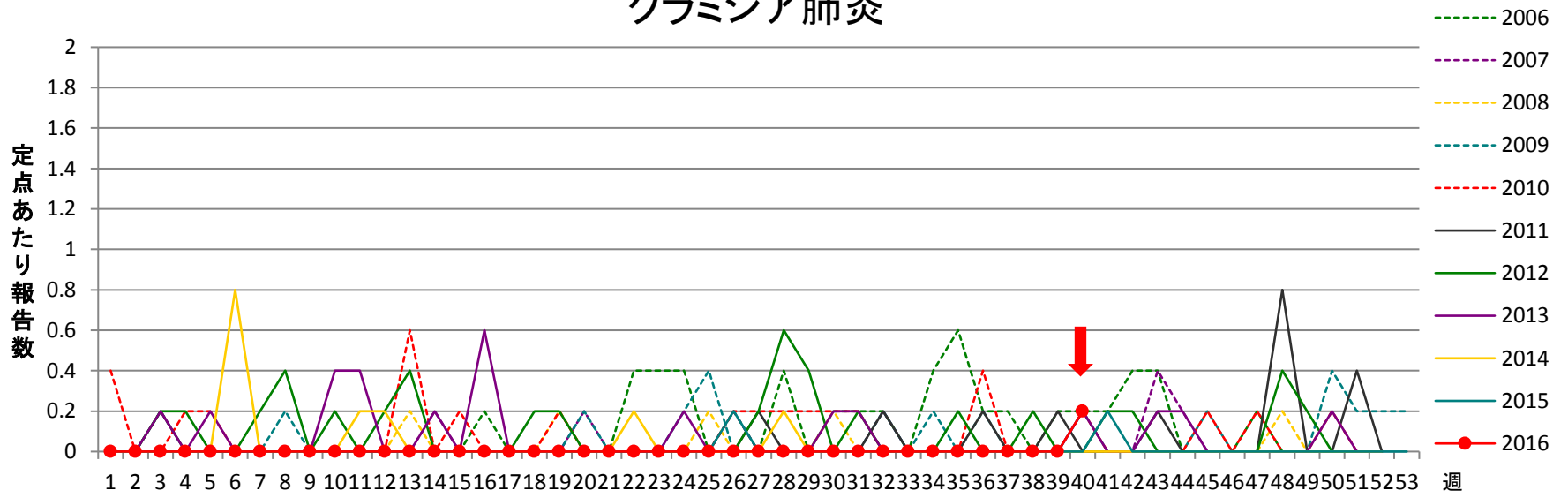
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

